

【事例⑮】

▼地区

きたきゅうしゅうし

福岡県北九州市



◆基礎データ

人口	960,817人 (H29.12月時点)				
計画の策定状況	地方版総合戦略等		地域再生計画 (生涯活躍のまち形成事業)		
	H27.10月		H28.12月		
交付金等	地方創生 先行型交付金	地方創生 加速化交付金	地方創生 推進交付金	地方創生拠点 整備交付金	その他の補助金等
	○	○	○		
地域再生 推進法人	法人格		法人名		指定時期
			(未定)		
コンセプト	介護医療システム維持とアクティブシニアの活躍の場の醸成を通じた移住施策				

▼お試し居住住居 (イメージ)



▼モデルエリア洞南地区での説明会



主なKPI等

主なKPI・関連指標	目標設定時の 足元値	最新値	目標値	測定方法
北九州市への50歳以上の 転入者増加数	0人 (H28.4)	△198人 (H29.3)	448人 (H33.3)	福岡県「人口移動 調査」により把握
50歳以上の「北九州市す まいるクラブ」(北九州市 への移住希望者の会員制 度)登録件数	0件 (H28.10)	159件 (H30.3)	220件 (H33.3)	市が管理する登録 名簿により把握

・指標設定のポイント：

北九州市へ移住を検討されている方に対し、相談窓口やお試し居住、移住希望者
会員制度、移住セミナー、就職支援、住宅補助など、各種支援制度を利用してもら
うことにより、市への転入者増加を目指している。

【事例⑮】福岡県北九州市

1. 官と民の役割分担について

◆ 1-1. 事業主体の概要、役割

市内全域において、アクティブシニアの定住・移住を促進するための事業を進めるとともに、市内の複数地区において「北九州市版生涯活躍のまち」を体現するようなモデルエリアを形成して取組を進めることとしており、市がコーディネートを行いつつ、民間事業者と連携しながら事業を進めている。

◆ 1-2. 官の役割（担当部局）

企画調整局地方創生推進室が中心となっているほか、雇用政策課、先進的介護システム推進室、長寿社会対策課、住宅計画課や関連する部署と連携して取組を進めている。

市としては、「北九州市版生涯活躍のまち」の形成のため、地域ごとの特性に応じた事業活動や住民活動が活発化するよう、環境整備や仕組みづくり等の側面支援を通じて、市全体への波及を目指している。

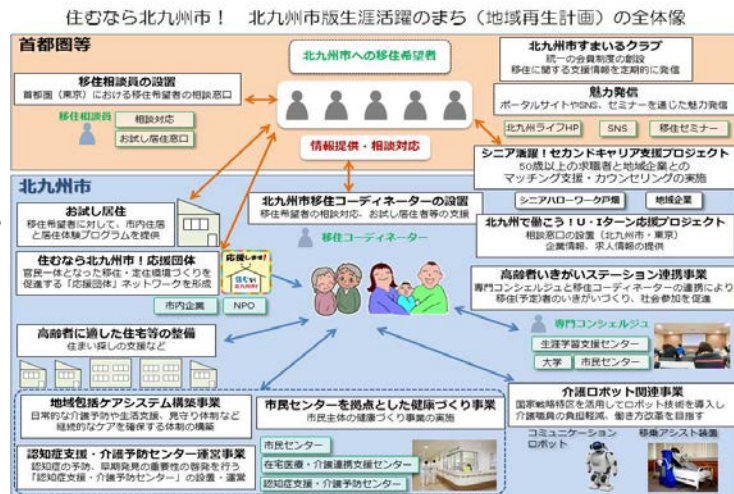
具体的には、中高年齢者の社会活動への参加推進においては、シニア・ハローワーク戸畑との連携により職業紹介等の就労支援を行うほか、社会活動への参加を促すプログラムを提供する。また、民間賃貸住宅に入居を希望される高齢者等が安心して住宅を探すことができる環境の整備等を行うほか、医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で継続して生活できるサービス提供の体制づくりを推進する。さらに、市内、首都圏において、移住希望者に対する相談窓口を設置するなど、様々な媒体を通じた情報提供を積極的に行うことで移住、定住を促進している。

◆ 1-3. 地方公共団体が、取組を開始した経緯、事業主体との連携を開始した経緯

北九州市では高齢化が顕著であり、平成28年3月31日時点で、29.0%と全国の政令市の中で最も高い状況にあり、今後もその状況は続く見込みである。

全国に先駆けて高齢化が進んだ結果、充実した医療機関や病床数、恵まれた介護施設、高齢者のいきがい活動を支援するメニューなど、高齢の方が暮らしやすい環境の整備が市内において進んだ。

そういった環境整備が進展している状況を活かし、医療・介護などの分野で長年に渡りノウハウを蓄積してきた民間事業者と連携しながら、「北九州市版生涯活躍のまち」への取組を進めている。



◆ 1-4. 今後のスケジュール

区分	実施主体	事業等の名称	平成28年度以前	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
計画策定	市	地域再生計画（生涯活躍のまち形成事業）	計画案の検討	申請・認定	地域再生計画の推進・PDCA		
		生涯活躍のまち形成事業計画			生涯活躍のまち形成事業計画の作成、推進、PDCA		
事業主体との協議	民間団体	事業主体との協議		事業主体との協議			
高齢化対応	市	北九州市高齢者・障害者住まい探しの協力店紹介制度		北九州市高齢者・障害者住まい探しの協力店紹介制度			
高齢化対応	市	住むなら北九州 移住推進事業		住むなら北九州 移住推進事業			

2. エリア設定について

◆ 2-1. エリアを設定した経緯

市としては、「北九州市版生涯活躍のまち」の推進のため、民間企業による事業活動や住民活動が活発化するよう、環境整備や仕組みづくり等の側面支援を行っている。市内の複数地区において「北九州市版生涯活躍のまち」を体現するような、地域の特徴に応じたモデルエリアを形成していくこととしている。

◆ 2-2. 設定エリアの特色

守恒周辺地区、黒崎周辺地区、洞南四地区、一枝周辺地区、山路松尾・高尾周辺地区及び八幡駅周辺地区の6地区をモデルエリアとする。各地区の特徴は以下のとおりである。

① 守恒周辺地区

北九州市小倉南区守恒を中心とする地区。周辺は、土地区画整理事業によって誕生した住宅地で、分譲団地や賃貸マンション等が多い。生涯学習・社会活動関連では、市民を対象とした公開講座を実施している北九州市立大学のほか、約50のクラブが活動している市民センターがある。医療・介護は、199床を有する病院や、住宅型有料老人ホーム等が所在する。

② 黒崎周辺地区

北九州市八幡西区黒崎を中心とする地区。商業集積地である黒崎駅に近接するエリアで、地区内には大型ショッピングモールが所在し、工場が立地する臨海部にも近い。生涯学習・社会活動関連では、約50のクラブが活動している市民センターのほか、生涯学習や交流、高齢者の活動支援等を行う拠点が集約された施設が近接する。医療・介護は、500床以上を有する病院があるほか、訪問診療を実施している診療所も少なくない。

③ 洞南四地区

北九州市八幡西区穴生・竹末・引野・相生町などの周辺地域。かつては新日鐵八幡製鐵所の社宅が多く立地し、現在では住宅街となっている。生涯学習・社会活動関連では、例えば、生涯学習の拠点として地域活動リーダーを養成する年長者研修大学の「穴生学舎」のほか、約55のクラブが活動している市民センター等が所在する。医療・介護は、約40床を有する病院や、地域の介護施設と密に連携している診療所、特別養護老人ホーム、サービス付き高齢者住宅等が立地する。

④ 一枝周辺地区

北九州市戸畑区一枝を中心とする地区。大学や高校、大規模公園などが所在する文教エリア。生涯学習・社会活動関連では、九州工業大学や西南女子学院大学が近い。約40のクラブが活動している市民センターも所在する。医療・介護は、医療モールや、サービス付き高齢者向け住宅内ケアステーション等がある。

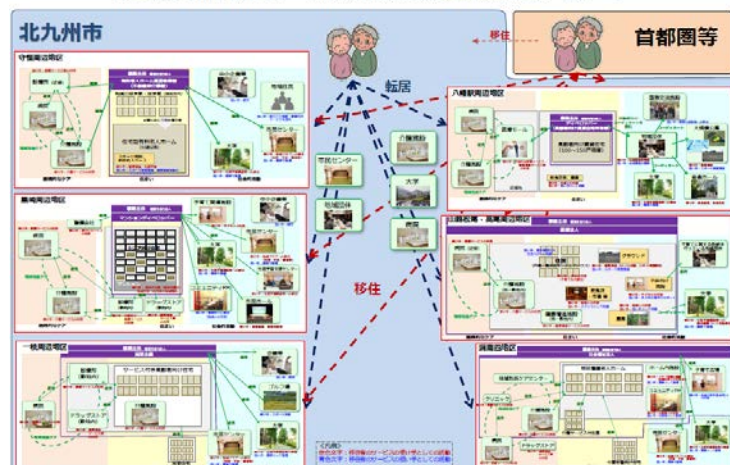
⑤ 山路松尾・高尾周辺地区

北九州市小倉北区高尾、八幡東区山路松尾を中心とした地区で、緑豊かな住宅街。生涯学習・社会活動関連では、九州歯科大学や西南女子学院大学が近く、約40のクラブが活動している市民センターも所在する。医療・介護は、120床を有する病院や在宅支援センター、住宅型有料老人ホーム、ケアハウス、グループホーム、デイサービス施設等が立地する。

⑥ 八幡駅周辺地区

北九州市八幡東区の八幡駅周辺を中心とした地区。新日鐵八幡製鐵所の社宅が多く立地していた住宅街であり、17.3haの広さを有する大規模公園がある。生涯学習・社会活動関連では、例えば、地域公開講座を開講している九州国際大学やJICA九州国際センター、響ホール等が立地する。八幡東地域のスポーツレクリエーションの中心大規模公園には、プールやテニスコート、野球場等が整備されている。医療・介護については、約440床を有する病院等が立地する。

住むなら北九州市！ 北九州市版生涯活躍のまちのイメージ



【事例⑮】福岡県北九州市

3. 特徴的な取組について

◆ 3-1. 特徴的な取組の概要

◎ 住むなら北九州市！プロジェクト

北九州市への移住を促進するため、以下の取組を通じて、移住前から移住後まで、移住者に寄り添った支援を提供している。

《住むなら北九州市！応援団体登録制度》

市が行う定住・移住促進に向けた取組に賛同し、自らも北九州市への定住・移住促進に向けた取組をする団体を「住むなら北九州市！応援団体」として認定。「引越関係」、「金融・保険関係」等の計10分類で55団体を登録（H30.3月時点）。官民一体となって北九州市への定住・移住促進に取り組んでいる。

《北九州市すまいるクラブ》

移住希望者に対する会員制度（メンバーシップ）。応援団体による様々な会員特典（例えば、引越費用の割引や北九州市の魅力体験できるツアー実施等）を提供するほか、移住に関する情報を定期的に発信することで移住・定住を支援する。

《お試し居住》

北九州市での暮らしを実感してもらう制度。お試し滞在用住居を用意し、希望に合った訪問先をコーディネートするなど、実際の生活体験や企業見学、地域活動見学を体験してもらう。

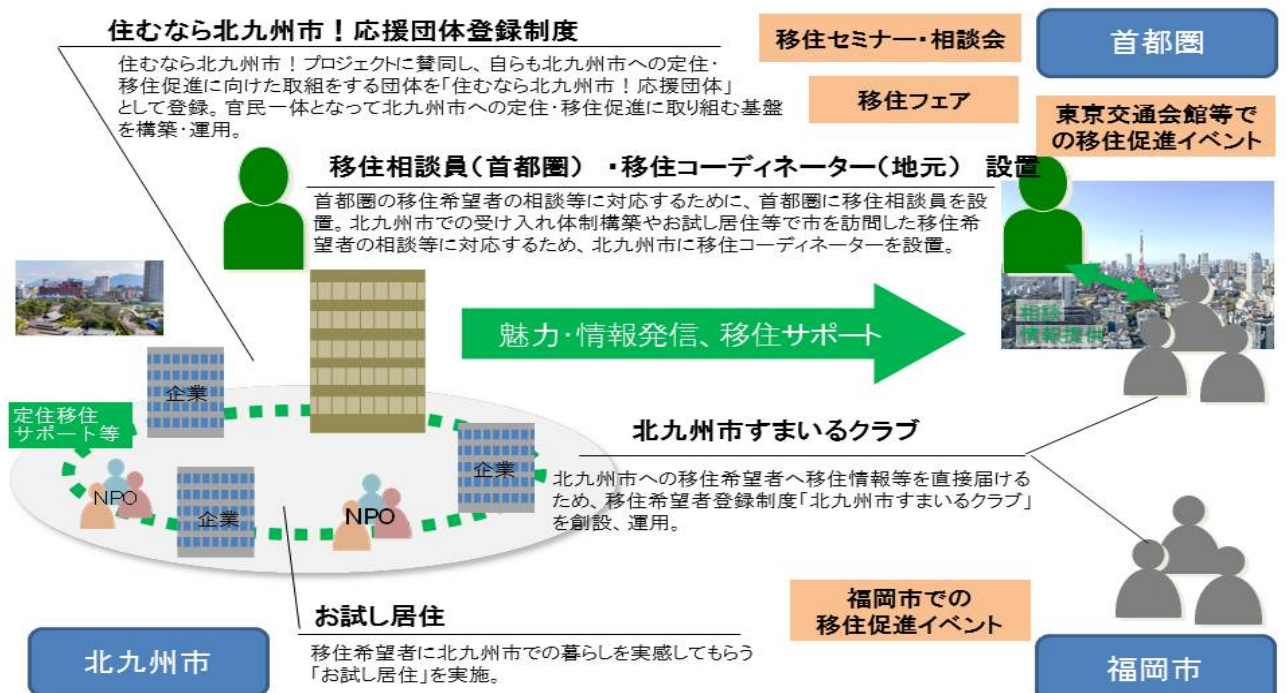
《移住相談員（首都圏）・移住コーディネーター（北九州市）の配置》

首都圏の移住希望者の相談等に対応するため、有楽町にある東京事務所に移住相談員を設置。また、北九州市では、移住コーディネーターが、お試し居住等で市を訪問した移住希望者の相談等に対応している。

● ◎ポイントとなる点やその他の参考情報

- メインターゲットとしている首都圏（移住元）と北九州市（移住先）の両方に移住窓口を設置して、移住前から移住後まで、切れ目のないきめ細かい支援を実施している。
- 北九州市自体は事業者や地域住民の活動を側面支援をする役割を担うこととしているため、事業者・地域住民の円滑な活動の実施と移住希望者への効果的な情報提供の両面に配慮した取組を実施している。

▼「住むなら北九州市！プロジェクト」概要



4. 課題について

◆ 4-1. これまでに直面した課題

① 移住希望者への情報支援について

平成27年度に市が実施した移住ニーズ調査では、「北九州市へ移住する際に知りたい情報」として4割以上が「移住の支援に関する情報」を選択しており、移住を考えている個人から北九州市ならではの移住支援情報が求められている状況ではあった。

しかし、移住希望者への各種支援等の情報を、市や市内企業・団体が個別に発信しており、情報発信先についても特定・組織化されておらず、市への移住のニーズがあることを把握しつつも、移住希望者の方へ、的確な情報を提供する仕組みがなかった。

② 民間事業者との連携について

民間事業者と連携して、北九州市全体で定住・移住促進に取り組む体制が構築されていなかったため、各企業が実施する移住希望者への支援と市が実施する支援策とを一体的に実施することができていなかった。

◆ 4-2. 直面した課題に対する対応

① 移住希望者会員登録制度「北九州市すまいるクラブ」を創設し、引越費用や不動産仲介手数料などの会員特典や、住宅補助、就職支援、市勢概要など、移住に役立つ情報をまとめて提供する仕組みを構築することで、移住希望者へ効果的に情報を提供することにつながっている。

また、定期的に移住セミナーやイベント、応援団体の情報をメールや郵送で案内することで、きめ細かい対応も行っている。

② 市が行う定住・移住促進に向けた取組に賛同し、自らも北九州市への定住・移住促進に向けた取組をする団体を「住むなら北九州市！応援団体」として認定。

平成30年3月時点までに、「引越関係」、「金融・保険関係」等の計10分類で55団体を登録している。

こういった取組を通じて、官民一体となって北九州市への定住・移住促進に取り組む体制の構築を図っている。

◆ 4-3. 現在直面している課題

全市的な取組としての就業支援、住まい探し支援、移住相談窓口の設置などの定住・移住促進については、環境が整備され具体的な支援体制の構築なども進んできていることから、実績も増加傾向にある。

一方、各モデルエリアにおける事業の推進は、市がコーディネートの役割を担いながらも、民間事業者が主体となり行うため、各民間事業者によりスケジュール感やニーズ課題は様々であり、結果として各エリアにおける進捗状況に差が生じている。

◆ 4-4. 現在直面している課題への対応方針

モデルエリアの実情に応じて、進捗状況に違いがあることは仕方がないものの、定期的に民間事業者等と会合を重ね、各事業者が有している課題・ニーズを把握しながら、方向性や事業の進め方について情報共有しながら進めることとしている。

◎ポイントとなる点やその他の参考情報

- 移住希望者のニーズを把握したことで、現状の取組内容に関する課題を的確に認識することができ、課題解決に資する取組を実施することが可能になっている。
- 移住希望者支援については、民間事業者と市との連携が図られていないケースがあったため、「住むなら北九州市！応援団体」のような枠組みを利用して、市と事業者が連携する体制を構築している。
事業者としては、企業PRになるとともに、市内への移住促進につながることで、地域内での企業活動の活性化にもつながることになり、市と協力するインセンティブとなっている。
- 取組を進める中で地域ごとに課題が生じるケースも十分に想定されるため、定期的な認識共有・課題共有を行い、地域の実情に応じた対応を目指している。